

登米市では1月17日に農業者との意見交換会を同市の宝江ふれあいセンターで開催した。当日は市内各地域の担い手農業者と農業委員のほか、市や県などの関係団体33名が出席。地域計画の策定や、地域における農業の課題について話し合われた。参加した担い手は、25歳から65歳の幅広い年代の8名。会が始まると、各々が話す要望や悩み事に同意する様子が見られた。

現在、協議が進められている地域計画については「市が開催している説明会の案内が、地域の人へ伝わっていない。周知方法を工夫しつつ、JAと連携をとって進めてほしい」といった意見があり、市からは「要望を踏まえて改善する」と回答があった。

担い手不足の問題については、市内の農業高校から農業大学校などへの進学率減少が話題となった。若い参加者からは「農業に興味を持ってもらいたいが、我々だけでは難しい。市や農協にも機会を設けてほしい。農業者も他産業と同じように働ける体制づくりが必要だ」と提案があった。

当農業委員会では、今回の意見をもとに、市へ意見書を提出する。

意見を述べる担い手農業者



意見交換会の様子



【記事提供】登米市農業委員会